

「合格する自己PRの書き方」

自己PRは面接試験の一環とも言える重要なポイントです。

小冊子「合格する自己PRの書き方」では、自己PRの書き方について一から分かりやすく解説しています。

第2章 合格につながる教師像づくりと自己PRの書き方

Q2 自己PRを書き始める前には、どんな準備が必要なのでしょうか？



A2

まず「自分を知れ！」ということです。

自分の個性・適性を理解することは、あらゆる職業を通して自己実現を図るうえで大切です。教職の世界だけでなくさまざまな職業においても適材適所の人事は経営の基盤として重要視されているからです。

そのためには自己分析をして自分の全体像を見ることが大切です。教員の選考に向けて自己分析を行うことは、単に受験のためだけではなく、これまで歩んできた人生の道を振り返り、これからの教員生活

「自分のアピールポイントって何だろう」にも必要なのです。

「どう表現したらしいのかわからない」
自分で客観的にとらえておくことは、面接試験への対策としてとても重要なのです。
そして、自指す教師像を確立しましょう。

自己PRにお悩みの受講生の方にもおすすめの一冊です。

Q3 自己分析の項目には、どのようなものがあるのでしょうか？

Q7 Q6で自己PRポイントを書き出しましたが、それらをどのように文章で表現していったら良いのでしょうか？

項目が一般的です。これらについて
年齢順に整理します。

A7

次の手順で自己PRの文章にしていきます。

ステップ1

●12の中から5つの自己PRポイントをアピールする

いきます。その時、大切なことは、人に相談せず、自分の印象に

あなたのことがあなたにしかわからぬ

書き込み式のテキストです。

ステップ2

●ピックアップした5つの中から、一番「説得のある

選んだこと

たとえば、「継続してしてきたこと」というエピソードの理由は、「書道を6年、水泳8年、柔道10年」と身の成長体験や進歩してきた足跡」を自分のPRポイント

Q10 自己PRの例文があつたら紹介してください。

A10

あくまでこれは例文です。あなたのオリジナリティを活かしてください。

と」の大切さとそれに伴う体力とチームワークで、ひとつの目標へ向かう姿勢ができるということを知りました。

また、団体競技におけるコミュニケーションを通して、「相手を理解しようと努力することができました。中学校の三年でキャプテン、高校三年でもキャプテンに選ばれました。キャプテン選出された以上、「全員が目的に向かってがんばる部をつくる」ことに励んでいました。キャプテンの経験は、周りの人の気持ちや状況を読み取り、それを考慮した適切な行動を取ることができました。

これらの貴重な経験を、特に信頼関係や人間関係が問われる学校という場で生かすことができます。